

(3) パネルディスカッション ～食品ロス削減へ！これからのイニシアティブ～

【コーディネーター】

NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長

崎田裕子氏

【パネリスト】

新潟薬科大学応用生命科学部特任講師

石丸亜矢子氏

イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー広報・環境社会貢献グループマネージャー

山城篤司氏

新潟お笑い集団NAMARA代表

江口歩氏

新潟気軽に省エネくらぶ代表

波多野千代氏

環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長

富安健一郎氏

○崎田氏 中谷内さんのライスバレーにいがたプロジェクトでは、新しいプラスチックの課題解決に向けて、新潟らしく「新型イニシアティブ」として取組を皆様と一緒に進めていきたいと発表いただきました。これからは新潟らしい取組をどのように発信できるか、「食品ロス削減へ！これからのイニシアティブ」をテーマにお話していきたいと思います。パネリストは、それぞれ御活躍いただいている皆様です。まず、食品ロスの問題にどのような取組をされておられるか、お話しいただけたらと思います。よろしくお祈いします。



○石丸氏 御紹介いただきました石丸と申します。よろしくお祈い致します。私は新潟薬科大学の応用生命科学部で地域活性化担当の教員として、IT やビジネス、ビジネスデザインを教えています。食品ロス対策で申しますと、学生と一緒に国内外の事例収集をしたり、教育教材として、かるたやすごろく、冊子などを企画したり、その中でも特に御紹介したいのが、「ECO コンソメスープ」という活動です。ECO コンソメスープというのはECO とコンソメスープをかけており、学生が付けた名前です。地域の市場やスーパーマーケットで捨てられていた野菜の葉材などを利用し、従来捨てているキャベツや白菜の外葉、潰れてしまったトマト、カット野菜の表面の乾燥してしまったカボチャや大根等をいただいてきて、それをコンソメスープにして地域のイベントなどで配布するという活動を行っています。昨年12月に第1回を実施し、地元の方々に大変喜んでいただきました。今、主力メンバーが4年生なので、今年度前半は実施しませんが、11月21日のお昼に大学で実施予定です。また、私自身は東京都豊島区で接点合同会社という食品ロス対策に関するコンサルティング会社を経営しており、こちらの会社でも様々な食品ロス対策に関する活動を行っています。その中で、野菜の葉材をスープにする活動を、会社として、別の大学のお手伝いもしており、11月中旬に青山学院大学の学食でも御賛同いただいたので、試験的に実施を予定しています。



○崎田氏 ECO コンソメスープ活動ということで、野菜の葉材をスープにする。これは新潟の大学だけではなく、全国の大学でもやっていただける可能性があるということで、すばらしいですね。ありがとうございます。また後程色々御意見をいただきたいと思います。それでは次は、イオンリテールの山城さん、よろしくお祈い致します。

○山城氏 イオンリテールの山城でございます。本日はよろしくお祈い致します。こちらは先週土曜日、新潟日報夕刊に掲載された記事です(図1)。イオンの食品ロスに向けた取組が記載されていますので御紹介させていただきます。右上の写真は、芯のない葉の部分だけの白菜のザク切りが置いてあり、芯を捨てるお客様には葉の部分だけ使ったものを提案していく、芯がいる方はそのものを買っていただく。使い切る分だけ食材を品揃えしています。惣菜のメニューは常に20種類以上、量り売りで御提案しているので、1人世帯も3人世帯も必要な分だけお求めいただけます。また、商品の期限を見やすくするアイテムはないのか、とよく言われます。左上の写真は、カフェオレのパック飲料の容器ですが、この開封口のクリップを店頭で売っています。クリップが透明であ



して活動しております。一番身近なところから省エネをということで、生ごみに着目致しました。その削減の活動を説明させていただきます。

生ごみは80%から90%が水分です。この水分を焼却すると多大なエネルギーを必要とします。私達は生ごみを風で乾燥させるグッズを使ったり、庭でコンポストを使ったりして極力生ごみを排出しない努力をしてまいりました(図2)。これがきっかけとなり、江南区という地域で、循環型堆肥化事業が立ち上がりました。「大地」という農産物直売所に、企業の生ごみ処理機を設置してもらい、農家と市民と企業と、それを行政が後押ししてくださいまして、ここで生ごみの堆肥化事業を行うことができました(図3)。私達市民が持っていく生ごみを産直の方が堆肥化し、その堆肥を、野菜を届けている農家の方が使って農産物が作られます。その農作物を、生ごみを持ち込んだときに私達は購入していきます。生ごみを持ち込むとき、これはちょっとした嬉しいことですが、50円のチケットがもらえるのです。江南区という1つの地域で完全に循環型になりました。とても今上手くいっております。また個人的にも堆肥化したという方も大勢出てきました。私達は当初段ボールを用いておりましたが(図4)、新潟市が段ボールのキットを作ってくださいまして、マジックダンボールと名付けて、現在、各区役所で販売しております。気軽に省エネくらはは、上手な堆肥化の仕方を伝えるために、講師の派遣もしております。

もう一步進めて、最後の生ごみの処理ではなく、最初の料理の段階で食品ロスをなくす工夫として、年に1回サルベージ・パーティーを開催しています(図5)。賞味期限が切れると嫌だという方が多いのですが、このクッキング講座では、家で持て余し気味の食品を持ち寄ります。その食材で、シェフ



図2



図3



図4



図5

がその場で組み合わせて、新しいレシピを考えます。そうすると、今まで自分たちが使わなかった食材が新しい料理に変わって、とても皆さん喜んでくださいます。このサルベージ・パーティーでは、消費期限と賞味期限の違いを正しく理解することの大切さを強調しています。

賞味期限と消費期限は、とても間違いやすいものです。これは亀田のごみステーションでのことですが、カラス

がいるなあと思って近づいてみると、卵がケースごと、中身が入ったまま捨てられていました（図6）。非常にショックを受けました。卵の賞味期限は生で食べられる日付ですから、その賞味期限が過ぎたら加熱すれば食べられます。皆様には、消費期限と違う賞味期限に関して、正しい理解をここから発信していただけたら嬉しいです。

○崎田氏 サルベージ・パーティーなどもしておられるということで、後程色々とお話を伺いたいと思います。それでは、環境省の富安さんから、国の取組等をお話いただければありがたいと思います。よろしくお願ひ致します。

○富安氏 環境省の富安と申します。よろしくお願ひします。3分というタイトな時間を頂戴していますので、少し駆け足になります。最初のページ（図7）、食品ロスをめぐる現状ということで、色々な数字並べています。これは崎田先生の説明の中でもたくさん出ていましたので、基本的に省略します。一点、年間1人当たりの食品ロス量が51kgと書いていまして、年間の1人当たりの米の消費量と大体同じくらいと言われております。それだけの量の食べられるものを捨ててしまっていると。また、<日本>と書いてあるところの下から2つ目、食料の家計負担が大きいということで、数字を載せております。食料が消費支出の4分の1を占めているということです。食品ロスを出すか否かは大きな家計の負担のポイントになると思っております。

京都市のホームページで、4人世帯の家族で年間大体6万円くらいの食品ロスによる損失を被っているという情報もございます。食品ロスを減らせば減らすほど懐も温くなるかもしれないということです。

食品ロス削減に関する目標を国で定めております（図8）。事業系食品廃棄物等と家庭系食品廃棄物等がございまして、食品関連事業者から出てくるものと一般家庭から出てくるものと両方で

目標を定めています。これはいずれも50%減と、なかなか厳しい目標になっておりますが目指していきます。



図6



● 食品ロスをめぐる現状

我が国の食品ロスの状況

- 食品ロス量は年間**643万トン**（平成28年度推計）※国連世界食糧計画（WFP）による食糧援助量（約380万トン）の1.7倍
- 毎日大型（10トン）トラック約**1,760台分**を廃棄
- 年間1人当たりの食品ロス量は**51kg** ※年間1人当たりの米の消費量（約54kg）に相当

<日本>

食料を海外からの輸入に大きく依存

- ・食料自給率（カロリーベース）は**37%**
（農林水産省「食料需給表（平成30年度）」

廃棄物の処理に多額のコストを投入

- ・市町村及び特別地方公共団体が一般廃棄物の処理に要する経費は約**2兆円/年**
（環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等について」）

食料の家計負担は大きい

- ・食料が消費支出の**1/4**を占めている
（総務省「家計調査（平成30年）」

深刻な子どもの貧困

- ・子どもの貧困は、**7人に1人**と依然として高水準
（厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」）

<世界>

世界の食料廃棄物の状況

- ・食料廃棄量は年間約**13億トン**
- ・人の消費のために生産された食料のおよそ**1/3**を廃棄
（国連食糧農業機関（FAO）「世界の食料ロスと食料廃棄（2011年）」）

世界の人口は急増

- ・2017年は約76億人、2050年では約**98億人**
（国連「World Population Prospects The 2017 Revision(June 2017)」）

深刻な飢えや栄養不良

- ・飢えや栄養で苦しんでいる人々は約**8億人**
- ・5歳未満の発育阻害は約**1.5億人**
（国連食糧農業機関（FAO）「The STATE OF FOOD SECURITY AND NUTRITION IN THE WORLD (2018)」）

SDGsの重要な柱

- ・国連の持続可能な開発のための2030アジェンダで言及
- ・G7 農業大臣会合及び環境大臣会合（2016年）で、各国が協調し、積極的に取り組んでいくことで合意

1

図7

食品ロスとは643万トンあります。お店から出て来る事業系食品廃棄物では、規格外品や返品、売れ残り、こういったもので352万トン。一般家庭は、食べ残し、直接廃棄、皮を厚く剥いたりした過剰除去など291万トン。全体で643万トンですが、家庭からも4割近く食品ロスが出ております。逆に言いますと、家庭で取り組んでいただくことで、かなりの量が削減できると思っております。

食品ロスの削減の推進に関する法律が、今年国会で成立し、今月10月1日から施行されております(図9)。これは国会議員の先生方の主導で作られた議員立法による法律です。食品ロスの削減に関する理解と関心を深めるために、今月10月を食品ロス削減月間と規定されました。また、明日10月30日は食品ロス削減の日と法律で定められております。これらに基づいて、今後様々な施策を打っていくかたちになります。

ここからは環境省でやっている取組を御紹介させていただきます(図10)。まず、一元的に集約したホームページの設置。トップページに消費者向け情報、自治体向け情報、事業者向け情報の3つの区分に分け、食品ロス発生実態の情報から、どういったことができるかの対策が載っております。このページの趣旨は、何よりもまず身の回りの食品ロスについて正確な情報を得ていただくこと。それを知ること、こういうことをやれば減るのかと御理解いただけると考えております。

まず、知っていただくための情報サイトということで「7日でチャレンジ!食品ロスダイアリー」というものを作っています(図11)。ダイエットされるときも、レコーデイン

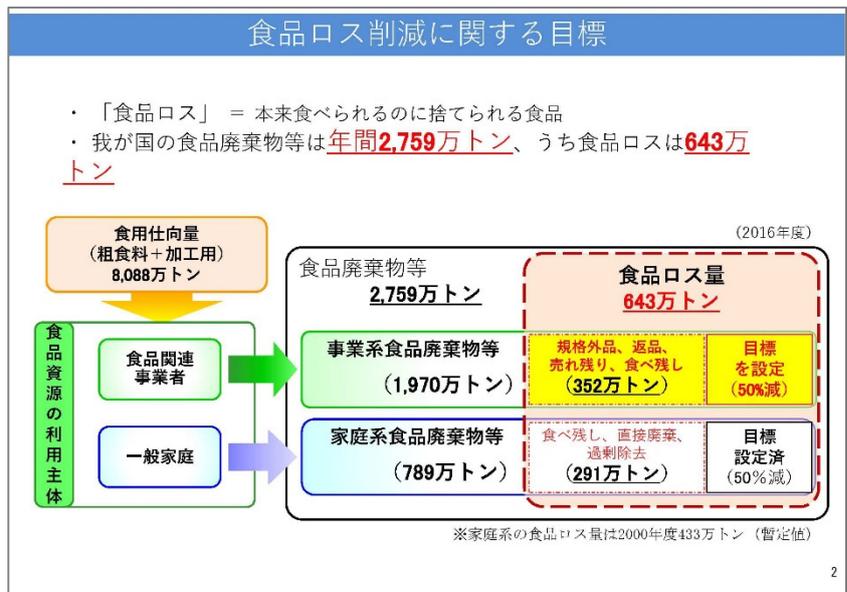


図 8

食品ロスの削減の推進に関する法律(概要)

令和元年5月31日に令和元年法律第19号として公布
10月1日より施行

＜食品ロスの問題＞
 ・我が国ではまだ食べることができる食品が大量に廃棄
 ・持続可能な開発のための2030アジェンダ(2015年9月国連総会決議)でも言及

資源の無駄(事業コスト・家計負担の増大)、
環境負荷の増大等の問題も

前文
 ・世界には栄養不足の状態にある人々が多数存在する中で、とりわけ、大量の食料を輸入し、食料の多くを輸入に依存している我が国として、真摯に取り組むべき課題であることを明示
 ・食品ロスを削減していくための基本的な視点として、①国民各層がそれぞれの立場において主体的にこの課題に取り組み、社会全体として対応していくよう、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくこと、②まだ食べることができる食品については、廃棄することなく、できるだけ食品として活用するようにしていくことを明記
 ・多様な主体が連携し、国民運動として食品ロスの削減を推進するため、本法を制定する旨を宣言

食品ロスの削減の定義(第2条) まだ食べることができる食品が廃棄されないようにするための社会的な取組	基本的施策(第14条～第19条) ①消費者、事業者等に対する教育・学習の振興、知識の普及・啓発等 ※必要に応じた食品の販売・購入、販売・購入をした食品を無駄にしないための取組等、消費者と事業者との連携協力による食品ロスの削減の重要性についての理解を深めるための啓発を含む ②食品関連事業者等の取組に対する支援 ③食品ロスの削減に関し顕著な功績がある者に対する表彰 ④食品ロスの実態調査、食品ロスの効果的な削減方法等に関する調査研究 ⑤食品ロスの削減についての先進的な取組等の情報の収集・提供 ⑥フードバンク活動の支援、フードバンク活動のための食品の提供等に伴って生ずる責任の在り方に関する調査・検討
責務等(第3条～第7条) 国・地方公共団体・事業者の責務、消費者の役割、関係者相互の連携協力	
食品廃棄物の発生抑制等に関する施策における食品ロスの削減の推進(第8条) 食品リサイクル法等に基づく食品廃棄物の発生抑制等に関する施策の実施に当たっては、この法律の趣旨・内容を踏まえ、食品ロスの削減を適切に推進	
食品ロス削減月間(第9条) 食品ロスの削減に関する理解と関心を深めるため、食品ロス削減月間(10月)及び食品ロス削減の日(10月30日)を設ける。	
基本方針等(第11条～第13条) ・政府は、食品ロスの削減の推進に関する基本方針を策定(閣議決定) ・都道府県・市町村は、基本方針を踏まえ、食品ロス削減推進計画を策定	食品ロス削減推進会議(第20条～第25条) 内閣府に、関係大臣及び有識者を構成員とし、基本方針の案の作成等を行う食品ロス削減推進会議 (会長:内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全))を設置

図 9

食品ロスに関する情報を一元的に集約したHPの設置

○消費者、自治体、事業者等の様々な主体が食品ロスの削減に向けた取組を進めるには、何よりもまず、身の回りの食品ロスについて正確な情報を得ることが重要。
 ○環境省では、それぞれの主体が食品ロスに関する正確で分かりやすい情報を得ることができる環境を整備すべく、食品ロスに関する情報を集約したポータルサイトを作成した。

「食品ロスポータルサイト」はこちら!

「食べ物を捨てない社会へ」

図 10

しまっておりましたが、育ち盛りの子供がいるとすぐに消費をしてしまいますので、手前から取ってもいいじゃないかと自分自身気が付きました。そういったことに気付いてもらえるように「すぐたべくん」というキャラクターを使い、すぐ食べるときには手前から順番に取ってくださいと普及啓発できればと思っております。

食品ロス削減月間ということで、普及啓発資材を参考までに載せております(図14)。環境省の取組ばかり宣伝させていただきましたが、食品ロスの削減についての関係省

庁は環境省以外にも、消費者庁、農林水産省、厚生労働省、文部科学省、経済産業省もごさいます。例えば、食品小売向けで、買い方でも食品ロスを削減できますよといった広報チラシは農水省で作られているものです。お皿に顔がついているものは消費者庁で作られたものです。それぞれの役所で、消費者向けや小売事業者向け、地方公共団体向けの色々な啓発をさせていただいておりますので、ぜひ御活用いただければと思います。

○崎田氏 ありがとうございます。会場の皆さん、これで登壇の皆様の取組などお分かりいただけたかと思いますが、この食品ロス削減をより一層進めるには、市民、事業者、行政、それぞれどのように取り組んだらいいのか、その辺を意見交換していきたいと思っております。先ほど富安さんのお話の中で、全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会を御紹介いただきありがとうございます。食品ロス削減に関心のある自治体が連携したネットワークで、現在47の全都道府県と361の市区町村、あわせて408の自治体と情報共有などをやらせていただいています。ホームページなどを御覧になっていただければと思います。新潟市も御意見があると思っておりますので、最後にぜひ御感想など、お気持ちをお話しいただければありがたいと思っております。

それでは話し合いを進めていきますが、環境省の富安さん、パネリストの皆さんの取組などを聞いたうえで、これから市民や事業者に、どのようなことを期待していくのか。ぜひその辺を今日の話し合いのスタートにお話しいただければありがたいと思っております。あと、もう一人専門家という立場で御参加いただいております石丸さんからも、市民や事業者への期待など、お話しいただければと思います。

<消費者・事業者の役割>

○富安氏 ありがとうございます。皆様様々な取組をされています。国として、食品ロスの削減目標の達成に向けて、様々な主体の方々に御活躍いただくことが必要だと思っています。先程御紹介した食品ロス削減推進法の中でも、事業者の役割や消費者の役割、地方公共団体・国の役割、そういったところが様々書かれています。その中で消費者の役割が、非常に強く食品ロス削減推進法の中で書かれているのかなと思っております。食品ロスの削減の重要性について理解と関心を深めるとともに、食品の購入、調理の方法を自ら改善するなど、食品ロスの削減に関して自主的に取り組むよう努める、と書かれています。そういったことを事業者の役割としても協力していくとか、地方公共団体としてもその地域の特性に応じた施策を作成することで取組を促す、と書かれていると理解をしております。先程も申し上げましたけれども、まず知っていただくということ、そして連携協働していく。消費者だけでもできませんし、事業者だけでもできませんし、地方公共団体・国だけで動いても世の中は変わりませんので、相互に連携協力をしていくことが大事だと思っています。そういった中で、皆様方、波多野さんや江口さん、石丸さん、山城さん、色々な立場の方々が様々な取組をされていることを、ぜひコラボレーションでつなげ、知っていただく機会を作っていくことが大事だと思っております。



図14

○崎田氏 消費者、事業者、それぞれの役割と連携協働した役割というお話をいただきました。その後、意見交換の中で、連携協働しながらどのように効果を上げていけるのかということもテーマにしていきたいと思ひます。御提示ありがとうございます。次に、石丸さんお願いします。

○石丸氏 私は、1つは海外事例研究等も含めた食品ロス対策に関する研究を行っている学の立場と、食品ロス対策に関するコンサルティング会社を営んでいる事業者の立場と、両方の立場から見て感じていることをお伝えしたいと思います。3年前の2016年の夏に会社を起業した当時は、まだ食品ロスやフードロスの認知度は広がっておりませんでした。非常にマイナーな分野に取り組んでいて、「変わってるね」と言われていたのですが、最近だいぶ言葉が浸透してきたなと感じてきております。ただ、多くの人々が率先して行動をするまでになっているかというところ、まだまだではないかと感じております。例えば、食品小売業や飲食店などの話を伺うと、売れ残りの廃棄をしていると聞きますし、自治体などで、家庭ごみ、一般ごみの組成調査を行っている担当者などにお話を聞きますと、買って来た食品がパッケージのまま丸ごと捨てられているごみが多いあるといった話も少なくない聞いております。また、レストランなどで食べ残した食品のうち、火が通っているものを持ち帰ってすぐに自己責任で食べきります、とお伝えしても、お店側から持ち帰りをお断りされるケースがまだまだ多いと感じております。海外ですと、食べきれなかったものを持ち帰りは当たり前に行ける状況で、ヨーロッパやアメリカはもちろん、タイ、ベトナム、インドネシアなどの東南アジアでもそうですし、南アフリカなどのアフリカでも大丈夫です、中国も例えば1元を払いパックをいただいて自分で詰めて帰ることが普通にできます。こうしたことが、日本ではまだまだ進んでいないと感じております。

もう一つ海外事例をお話ししますと、ヨーロッパを中心に共同冷蔵庫、あるいは連帯冷蔵庫という取組が広がっています。特にドイツでは一般に普及しているもので、ドイツ語だと「フェアタイラー」と言うそうです。何かというと、地域のコミュニティセンターや、場合によってはマンションの共同住宅の入口などに地域の共用の冷蔵庫や食品棚が置いてあって、そこに余った食品を誰でも持ち込める、そして欲しい人は誰でも持って帰れるという仕組みです。さらに、地域のスーパーなどで棚から降ろされた野菜などもボランティアの方が運び込んでいて、それを地域の皆さんで共有して食べきることが行われていて、これが結構各国で広がっています。こうしたことは、なかなか日本では進まないのではないかとおられる方が多いのではないかとお思ひますが、日本でも2030年までに食品ロス半減という目標を達成するためには、まずはこうした一人一人が自分事として意識を持つことと、誰かがやってくれるのを待つとか施策を待つのではなく、能動的に行動することが不可欠なのではないかと考えております。

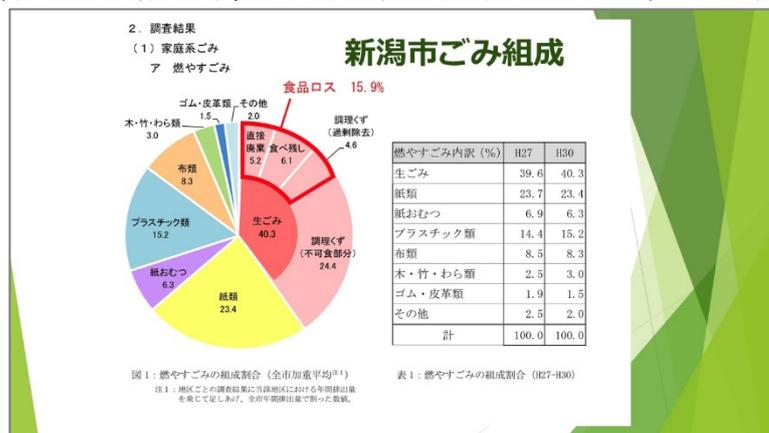


図 15

○崎田氏 ありがとうございます。石丸さんから、自分事として、まずは率先して動いていくことが大事という話がありました。波多野さん、消費者の役割としてどんなところをしっかりとやっていきたいとおられるか。その辺をお話いただけますでしょうか。その後江口さんからも、消費者としてどのようなことができるか伺っていかうと思ひます。

○波多野氏 こちらは新潟市の最新のごみの組成の状況です(図15)。生ごみが40.3%とあります。生ごみのところだけ取り出すと、調理くずが61%、過剰除去が11%、直接廃棄が13%、食べ残しが15%にな

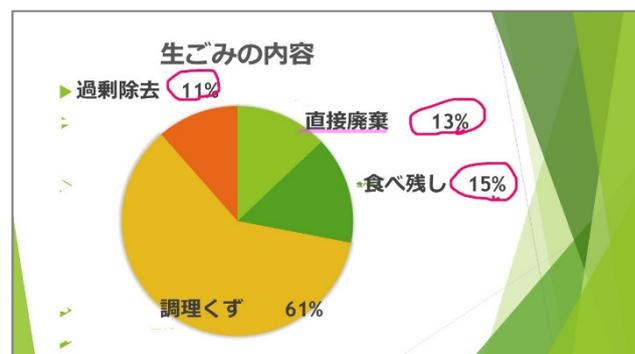


図 16

ります(図16)。私が今日ぜひ皆さんにお話ししたいと思いましたが、直接廃棄の部分です。どうしてこういうケースが出てくるのでしょうか。なんとか解決の方法はないのでしょうか(図17)。農水省のホームページを見ますと、賞味期限という統一の単語になったのは2003年だそうです。おいしく食べる賞味期限の設定の仕方は、国が定めた食品期限表示のガイドラインによりますと、安全係数が用いられているケースが多いようです(図18)。その説明を見ましたら、理化学試験、微生物試験、官能試験をもとに算出した、実際の日持ちする日数に1より小さい安全係数という数字をかけると書いてあります。加工食品のガイドラインでは0.8が推奨されているそうです。安全係数0.8を使った場合、本来の美味しく食べられる期間の8割、実際の賞味期限よりも2割手前に日付が打たれるということです。ですから賞味期限は皆様が御購入になって少し期間が過ぎても大丈夫なように、幅を持たせて出荷されているのです。どうしてそれを、期間が過ぎたら即捨てるのでしょうか。賞味期限は「比較的劣化しにくい食品のおいしさの目安です」とあります(図19)。目安なのにどうして速攻に捨てなければならないのでしょうか。厳密に守っている人が少なくないと思います。たぶん、消費期限と勘違いしているのではないのでしょうか。この直接廃棄を無くすだけでもだいぶ違います(図20)。買いすぎない、買ったものは使い切る、保存の方法を工夫する、賞味期限が来ても速攻で捨てない、季節ごとに冷蔵庫のサルベージ・パーティーを行う。消費者の役割として、このようなことができるのではないのでしょうか。

○崎田氏 まず入り口として賞味期限の意味を味わい期限と知っていく。そしてできるだけ期限の中で食べるのが大事ですけども、それが過ぎても工夫をしていく、ということですね、ありがとうございます。それを踏まえつつ、どのように私達消費者・市民として役割があるかというあたり、江口さんお願いします。

○江口氏 僕らお笑い集団と言っておりますが、社会課題をエンターテインメントにしている仕事も多く、フードバンクをもっと広めるために、我々芸人、そして私も先日フードバンクの新潟大使になりましたが、色々広めていくというのも仕事の一つになっております。先ほどSDGsを小学校に伝えていくとあったように、我々芸人が今、小中高1,500校くらい、テーマを持ってまわっております。学校で教えていけばいいと思いますが、学校はブラック企業で余計な事がもうできないのです。そうすると、僕は実は、新潟駅の南の自治会長をやっておりますが、自治会を使っていいと思うのです。自治会は子供たちとかと定期的に色々なことをするので。例えば今のようなものを町内に集めてみんなでお知らせするなどやろうかなと、話を聞いて思いました。

そしてもう一つ、ホテルで営業して、誰も聞かないところで散々苦勞し、皆さんがいなくなった後、余っ

直接廃棄 なぜ!?

- ▶ 農水省のHPの賞味期限(2003年統一)
- ▶ おいしく食べることができる期限です。
- ▶ この期限を過ぎても、すぐにたべられなくなるわけではありません。

▶ 消費者の反応

- ▶ おいしくないなら捨てよう。
- ▶ 期限は期限、絶対守る。

図17

**賞味期限の設定の仕方
国が定めた食品期限表示のガイドライン**

- ▶ 安全係数を用いる場合
- ▶ 「理化学試験」「微生物試験」「官能試験」をもとに算出した実際の日持ちする日数に1より小さい安全係数という数字をかける
- ▶ 加工食品のガイドラインでは0.8以上が推奨されている。
- ▶ 安全係数0.8を使った場合、本来の美味しく食べられる期間の8割。(実際の賞味期限より2割手前に日付が打たれる。)
- ▶ 少し期限が過ぎても大丈夫なように幅を持たせて出荷される。

図18

**賞味期限
比較的劣化しにくい食品の
おいしさの目安です。**

- ▶ 目安に過ぎない日付を、
- ▶ 厳密に守っている人は少なく無い。
- ▶ 消費期限と勘違いしていませんか?

図19

直接廃棄を無くす努力を・・・

- ▶ 買いすぎない
- ▶ 買ったものは使い切る
- ▶ 保存方法を工夫する。
- ▶ 賞味期限がきても速攻で捨てない。
- ▶ 季節ごとにサルベージ・パーティー

図20

た料理が僕らの飯なんです。売れない芸人は持ち帰りたい。これ持ち帰っていいですかと、タッパーも持って来ますが、だめですよ、となる。でも本当に持ち帰りたい。僕はさっきの話で聞きたかったのは、結局海外でオッケーなのに、なぜ日本はだめなのか、その原因を聞きたい。「誰なの、それだめって言っているの」というところをもうちょっと教えてもらって、「実はここなんですよ」



と言ってくれたら、我々は、こういうのをまた突いていったりするのがお仕事なので。消費者目線でもあるので。タネを明かしてほしいです。

○崎田氏 ありがとうございます。質問が出ましたのでここを解決しないとイケなさそうなのですが、私の理解ですと、以前は食品の安全のことを考えて、保健所などが持ち帰りはやめてほしいとお店を指導されていたと思います。ただし最近、大変ロスが増えてきているということで、保健所などの指導も変わってきていると思っています。富安さんにも一言、その辺の情報は入れていただきたいと思うのですが。

○富安氏 いわゆる持ち帰りバッグ、ドギーバッグと呼ばれるものですが、これに関して消費者庁が「もったいないを行動に！食品ロス削減のための戦略企画会議」を今年4月に開催しております。消費者庁のホームページにも掲載されておりますけれども、外食で食べる時の食べきりガイドや、ドギーバッグ普及委員会というNPOが作成したステッカーがあります。このステッカーには、「食べきれずに残した料理は、自己責任で持ち帰り頂けます」と記載されており、お店に貼っていただくものになります。こういうものを戦略会議として御紹介させていただいております。

○江口氏 それはホテルではまだやっていないということ？

○富安氏 ホテルの方々が、どのように使われているかですけれども、消費者庁主導の、その戦略会議の中で出したものについて、消費者庁、農水省、環境省連名の通知文を、都道府県の食品ロス削減担当部局に5月下旬に出しております。通知文を発出するにあたって、厚生労働省の食品安全担当部局とも協議済みで、厚生労働省からも都道府県などの衛生主管部局へ情報提供させていただく旨も通知文の中に書かせていただいている。そういったものを使ってレストランや飲食店への指導に御活用いただくことも可能かと思っています。ただ、それがうまく伝わっていないとすると我々の周知がまだ十分ではないということかもしれません。

○江口氏 今の説明を聞いていてもよくわからなくて、簡単に言うとどういうことだったのですか？

○富安氏 簡単に言うと、自己責任で持ち帰りできますというのを利用者の方が意思表示をされれば、飲食店側は提供されてはいいがですかと。飲食店側でもやっていただけますよということ。

○江口氏 やっていただける？

○崎田氏 お店への指導が本当に何十年か長い間、安全性は今も大事ですが、食品ロスのこととあまりバランスを考えずに安全性を強調されていたけれども、火の入ったものを自己責任であれば持ち帰ってもいいという流れに、政府でも発信の仕方を変えているという理解でよろしいですね。ありがとうございます。ぜひ江口さん、地域での色々な宴会のときも、そういう話をお店の方にさせていただければありがたいと思います。

次に、事業者としてできることということで、山城さんに、今、強調して自分達事業者がやろうとしていることをお話いただければと思います。

○山城氏 私どもはスーパーですので、100gが98円なのか88円なのか、あるいは肉のステーキを作るときに、1枚あたりを130gにするのか180gにするのか、売り上げをとっていくことに関しては非常に精緻に検討しておりますが、廃棄物については、kgいくらで業者が引き取ってくれるので、コストという見方になっておりました。しかしここ10年くらいの世の中の変化の中で、売り上げほど精緻にはいかななくても、廃棄

物についてきちっと「見える化」することが必要だということで、食品廃棄物の発生源単位で、具体的に2015年度を基準にして2020年までには25%削減する。2025年までには50%削減するという社内的な目標を対外的にも公表して進めていく、要は店舗の段階で「見える化」することを、売り上げと同じように廃棄物についてもやっていくという方針としています。

それともう1つ、食品ロスを考えてときに、一次製品の未出荷という問題もあります。前回の台風で大きな被害を受けております長野についても、リンゴが非常に大きなダメージを受けました。被災して品種や大きさなど選果ができないものを、そのまますべて私どものセンターに送ってもらい、センターの者がシナノゴールドや秋映など色々な品種を4~5個、1つの袋に入れて、先週の土曜日、日曜日の2日間、北関東、南関東そして私どもの新潟・長野の店舗で、長野県産のリンゴを販売しました。こういう規格外の商品やバラ売り裸売りというものを、お客様に御理解いただける風土になっているというのが非常に大きく、この風土がお客様の中で醸成されることが、我々も規格外を売っていく大きな追い風になると思っています。事業者としては、廃棄物の「見える化」という問題と、規格外の商品を積極的に売っていくと、このような取組を続けていきたいと思っています。

○崎田氏 ありがとうございます。事業者にとっても量的な「見える化」は重要だと思いますし、規格外品が本当に色々な流通の過程でたくさん出ていると。まず食品ロスを無くすということが重要で、出てしまったものに関しては、フードバンクさんなど色々な社会の動きがありますね。

○江口氏 フードバンクでは、メンバーだからわかるのだけど、なかなか食品が出てこないんですよ、イオンさんから。これは別にクレームではないのですが、もっと食品があるだろうと思っているのだけれども、なかなか来ないのはなぜなんですかね？

○山城氏 私どもはスーパーですので、まずは全て売り切ると。先程、新聞にも載ってございましたけれども、「つれてってシール」というものを貼りながら値段を下げて段階的に売ると。まず、売る努力が最優先の業務と考えておりますので、最終的に残りそうなもの、あるいは、賞味期限が近いものについては、試食でお客様に提供するなどして、廃棄を少しでも減らす努力はしていると御理解いただければと思います。

○崎田氏 フードバンクという取組が全国にありますけれども、その前に、スーパーとしては出さない努力をするというお話。とても重要なことだと思いますが、どうしても出てしまったものに関しては、期限が切れる前にフードバンクさんと相談するなど、そういう可能性はないでしょうか。

○山城氏 西の店舗では、自治体や地域のステークホルダーと連携しながら、フードバンクと取組をやっているところがあります。ただし、それは各地域の特性がありますので、私どもも、もし新潟で参加できるような体制が整えば、それはもう、前例としてイオングループでやっておりますので、進めていきたいと考えております。

○崎田氏 ありがとうございます。先程「見える化」をするとおっしゃってくださったのが、とても重要なことで、まずは自分たちの状況がどうかというのがデータ的にはっきりして、それを公表していただける状態になれば、社会がどのように応援できるかわかってくるのではないかと思います。先程、環境省の富安さんから連携協働で相乗効果を上げてほしいというお話がありました。皆さんの活動を連携していくというとき、どのようなことに取り組んだらいいのか、シンポジウムのテーマが新型イニシアティブですので、御提案なり、皆さんの宣言なり、お話いただければありがたいと思います。

<各主体の連携に向けて>

○石丸氏 まずは各ステークホルダーそれぞれみんなが、民間もそうですし国や行政もそうですし、大学もそうですが、自分が主体だと考えることが一番大事ではないかと思っています。フードバンクの話が出たので例を挙げさせていただきますと、先週末に東京都内の豊島区にある帝京平成大学で、学生団体がフードドライブを行いました。そこでのアンケー



トの結果を少し紹介させていただくと、食品ロス問題の認知度は70%程度だったのですが、食品ロス対策に関する活動をやったことがない人は95%で、実際にフードドライブへの寄付などの行動している人が5%程度しかいないという結果になりました。現場でお持ちいただいた食品を学生達が集めているところを拝見したり、豊島区のお話も伺ったのですが、持って行っても受け付けられない食品もある。また、受取窓口が区内の支所とかなので9時～5時しか開いていなくて、訪れたお客様が、普段から家にこういった食品を集めているのだけれども、仕事をしているので日中は持って行けず、そのうちに期限がきれてしまう、イベントなどで集めてくれると助かるとおっしゃっていました。このように、まず気持ちを持つということも一番大きいと思うのですが、それだけではなく、連携をさせるための仕組み作りが非常に重要ではないかと思っています。

学役として、先週末に行ったフードドライブではかなり多くの食品が集まりまして、区の方も、大学と連携したことによる結果が出たなどおっしゃっていました。このように、行政の方にはぜひ、大学や地元、企業、民間の力を活用して、繋げる取組をしていただければと感じております。

○崎田氏 気持ちから行動へというのが大事だけれども、そのためには繋ぐ仕組みがないといけない。気持ちがあるのは70%だけれど行動しているのが5%という学生さんのアンケート。残念ですがそれが現実だと思います。ありがとうございます。そういう意味では大学と連携するなど、色々な場を作っていくというのが非常に重要だと思います。次は江口さん、よろしくお願ひ致します。



山大 社N

○江口氏 僕は伝わっていないことを伝える工夫をやっていきたいというのがありまして、結局フードバンク大使になってはいるものの、今のような結果が出ているということは、まだ伝える力が弱いのですが、そういうときに、他の県はわかりませんが、新潟は経済とエンターテイメントが分離しているのですよ。例えば、わかりやすく言うと、商工会議所の中に街づくり部会など色々な部会がありますが、エンタメ部会はないのです。今日司会をやっている山田彩乃さんはミス・アースで環境のことを考えていらっしゃるし、実は次回フードバンク大使になるなど、エンタメでテレビでも活躍されているのですね。しかも群馬の方まで行ったりしている。今、新潟に多くのエンタメの方たちがいるから、そこと全部組んで同時多発で情報発信していくような、経済側と我々でチームを組めたらもっと面白い展開になるのではないかと考えていて、そういう動きを別角度でやっていきたくて思っております。

○崎田氏 ありがとうございます。経済とエンタメの連携で、先程おっしゃっていた2010運動やフードバンクにつながるなど、そういうことが時間をかけて信頼関係を作りながらきちんとできれば素晴らしいですね。波多野さんはいかがですか。

○波多野氏 国は賞味期限、消費期限という名前を付けました。漢字で書きますとわかりますが、ひらがなで書くとしょうみとしょうひの「み」と「ひ」一字しか変わらないわけです。ちょっと聞き違えると期限だけが強く印象に残り、期限は守らなければならないと思うわけです。ストップとかセーフとかお年寄りにもわかるような簡単なネーミングであれば、消費者は行動を起こしやすかったと思います。賞味期限は美味しく食べられる期限の目安だと分かっても、じゃあ過ぎたら美味しくないとことだから食べたくないという意見です。友人と話して、「大丈夫なのよ、賞味期限がきてもまだ食べられるんだから」「そうなの？じゃあ波多野さん食べてくれる？」これが現実でございます。何とかネーミングをお願いします。

○崎田氏 ありがとうございます。では、山城さん。消費者の皆さんの盛り上がりとともに、どのように事業者が連携できるか、どんな可能性を感じておられるか。一言お願いします。

○山城氏 まさに、リサイクルループみたいな考え方だと思います。店舗で出てきたごみをベンダーで堆肥化して、それを私どもの直営農場で堆肥として使い、店頭でまた売っていく。これも1つのリサイクルループでありますし、フードバンク的な取組についてもループでありますし、そういう循環できるような体制を早急に作れるように、事業者としても努力してまいりますし、自治体やNPO法人など、そういう部分の御支援をいただければと思っております。

○崎田氏 発生抑制は大事だけれども、出ってしまったものに関しては堆肥化すると。そういうものでできた

お野菜やお肉を、もう一回消費者に買っていただくことも大事だというお話ですね。そういう食品が出ている状況ですか？

○山城氏 今、西日本のイオングループで110店舗くらいの規模でやっておりますし、直営の兵庫県三木に農場があり、そこでもやっている取組ですので、全国にイオン直営農場が21か所ありますので、たまたま新潟にはございませんが、残念ながら。そのような環境ができれば、進めていくということです。

○崎田氏 直営農場があるので、今のところフードバンクよりも、そちらに回っていくルートがあるということですね。状況が分かってきました。そうすると後はきっと、地域の方はどういうものはぜひフードバンクへ、という提案を一生懸命していただくという。そういう流れも作っていければということだと思います。ありがとうございます。富安さん、こういう色々なお話がありましたけれども、どのようにこれを受け止めていこうと思われたか、一言よろしくお願ひします。

○富安氏 食品ロスの削減の取組については、まず現状を知ること、そしてその取組手法を知ることが大事だと思っています。先程波多野さんから御紹介ありました新潟市のごみの組成調査、これは新潟市の中でどういふ生ごみがどういふ形で出ているのか、それを知ることによって対策のヒントにも繋がると思ひます。私の方で御紹介しました食ロスダイアリー、これも結局、我が家にどういふ特性があるのかを知ってもらう上では非常に使えるツールだと思ひますし、先程江口さんがおっしゃられた自治会で取り組むという話も、例えば自分達の自治会はどういふ状況なのか把握してみるのも、食ロスに取り組むきっかけになるのかなと思ひました。



あと環境省の方で御紹介しました自治体向けの取組マニュアルの中では、自治体とホテルの連携の具体例や、自治体と協力していただける飲食店との取組例、公立小学校での取組といったことを色々書いています。我々としては自治体の方々向けに作っている面もありますけれども、逆にいうと、自治体からなにかアクションを受ける方々にとっても使えるものになっていると思ひますので、ぜひそういうところを活用いただいて、自治体や国に逆に提案もすると。そういう意味では自治体だけでなく、皆さんにとっても有益かなと思ひております。令和元年度版も今日からホームページで公開していますので、御活用いただければ幸いです。

○崎田氏 賞味期限と消費期限の話は、消費者庁に伝えていただくと。

○富安氏 はい、先程の私の説明の中の普及啓発資料で、農水省が賞味期限は美味しく食べられる目安ですというチラシも作っているのですが、波多野さんからの周知が足りないというお叱りだと思いますので、状況は共有したいと思ひております。

○崎田氏 ありがとうございます。食品ロスに関して、それぞれの立場でかなり意欲が高まっているということは見えてきました。けれども現実には、暮らしの中で実践している若者は非常に少ないなど課題も見えています。そういう中で連携して取り組むことで情報をできるだけ繋いでいくということが必要だろう、と非常に強く思ひます。

今日は、新潟市さん、こういう場を設定してくださいましてありがとうございます。皆さんのお話を受けて、ぜひ新潟の取組を広げていただきたいたいと思ひますけれども、なにか一言、新潟市環境部長の長浜さん、よろしくお願ひします。

○新潟市環境部長 長浜裕子氏 皆様大変ありがとうございました。多くの皆様に、新潟にお越しいただきましてありがとうございます。こうして盛大に開催できたのも、皆様の御尽力のおかげと大変感謝しております。今回、先生の講演から始まりまして、事例発表、それから今のパネルディスカッションと、非常に参考になりました。パネルディスカッションも大変盛り上がりまして、波多野さんなど、常日頃からお付き合いがあるのですけれども、強い思ひを今改めて感じたので、これ



からどうやっていけばいいのかを一緒に考えていけたらと思っております。

先程紹介があったように、新潟市のごみの4割が生ごみで、その中に相当量の食品ロスがあるということが組成調査でわかりました。分別等の見直しにより、ごみを3割削減することができ、市民の皆様のおかげと思っております。ここ数年は横ばい状態が続いており、次のステップに入っていかなければいけない。そのターゲットの1つは、やはり今問題になっている食品ロスをどうやって減らしていくかだと考えております。そのヒントをいただき、今日を機会に、また更に削減に向けて取組を進めてまいりたいと思っております。ありがとうございました。

○崎田氏 ありがとうございます。そして中谷内さん、先程、事例発表でライスバレーにいたプロジェクト、プラスチックのお話をいただき、先進的に取り組んでおられますが、食品ロスの盛り上がりに応援を一言いただくことはできますか？

○中谷内氏 僕自身小さいころから、食べ物は残すな、全部食べという指導のもとに育ってきましたし、米も一粒も残すなという中で育ってきたので、今でもなるべくごみは出さないようにと。先程石丸先生が言われたように、個人個人が思いを込めてやっていかなければいけないことなのかなと思っています。またこのような機会がありましたら是非参加させていただきたいと思っております。勉強になりました、ありがとうございました。

○崎田氏 皆さん本当にありがとうございます。私もパネリストの方、そして会場の皆さんの御意見を伺いながら、3つだけ最後にお話をしたいと思っておりました。1つ目は、定量化をして、どこに課題があるのかをはっきりみんなで共有をすることが大事だと思います。次に、子供たちに伝えることも大事だとの御発言がありましたが、次の世代にきちっと伝えることが大変重要なのではないかと思います。3つ目は、それぞれの役割をきちんと率先してやる、ということはもちろんなのですが、それだけではなく、他の立場の方ときちんと連携をする。連携をするときに、具体的な仕組みを作っていくことをすすめたい。石丸先生もおっしゃいましたが、学生と地域と一緒に調査活動をして定着させるとか、あるいは関心のある事業者と連携して自治体が地域の消費者と事業者呼びかけたり、食べきり協力店づくりなどありますが、そういう様々な仕組みをきちんと作っていくということで発信力も生まれて状況は広がるのではないかと思います。今日、仕組みの1つとして経済とエンタメの連携ということで、これは新潟から発信していただいただけですが、そういった取組もぜひ広げていただければと思います。会場の皆さんそれぞれ、きっと色々な取組をしておられるので、自分だったらこうしたい、というお気持ちはたくさんあると思います。ぜひ、こういう場での出会いなどをきっかけに連携をひろげて、具体的な食品ロス削減に現実に取り組んでいただければありがたいと思います。



今日は、最初のお話はプラスチックのことをかなり明確にお話させていただきましたが、パネルディスカッションは食品ロスということで、これからみんなで作っていく時期ですので、ぜひ、今日のお話など参考にさせていただきながら、一步一步広げていただければ大変ありがたいと思っております。会場の皆さん、お聞きいただきましてありがとうございます。まずは壇上の皆さんに大きな拍手をお願いしたいと思います。また、会場の皆さんに、今日をきっかけに頑張りましょうということで、もう一回大きく拍手をしていただくとありがたいと思います。どうもありがとうございました。

(4) 次回開催地挨拶

和歌山県環境生活部環境政策局長 古川勉氏

和歌山県環境政策局長の古川と申します。本日は御出演の皆様の色々な意見を聞かせていただき大変勉強になりました。全国からお集まりいただき、このたびの台風被害にあわれた地域の方もいると思います。お見舞い申し上げます。和歌山県も栃木県に応援に行き、ごみの処理等お手伝いをさせていただいております。和歌山県は近畿の一番南にあり、毎年のように台風の被害がでていますので一日も早く復興されますように、その力を活かしていきたいと思っております。



今年は大阪でG20 サミットが開催されました。それにあわせて関西広域連合では「関西プラスチックごみゼロ宣言」をいたしました。和歌山県では、プラスチックごみ対策や食品ロスの問題も力を入れて取り組もうと、頑張っております。新潟も日本海に接しておりますが、和歌山は太平洋に面している海に囲まれた地域です。そういう意味では海ごみの問題・プラごみの問題が一番の課題になると思っております。来年は3R推進全国大会を和歌山で開催しますので、そうした課題・テーマでやっていきたいと思っております。

新潟は日本酒がおいしいところです。和歌山県は、新潟ほど日本酒は多くはありませんが、海の幸、山の幸、おいしい果物などがたくさんあります。また、世界遺産の高野・熊野があり、意外と知られていませんが、パンダも6頭おります。そういうところも見ていただきたいと思っております。

本日の皆様の熱い思いをもって、来年は和歌山へぜひお越しいただきたいと思っております。本当に本日はお疲れ様でした。

4. 3R推進展示コーナー

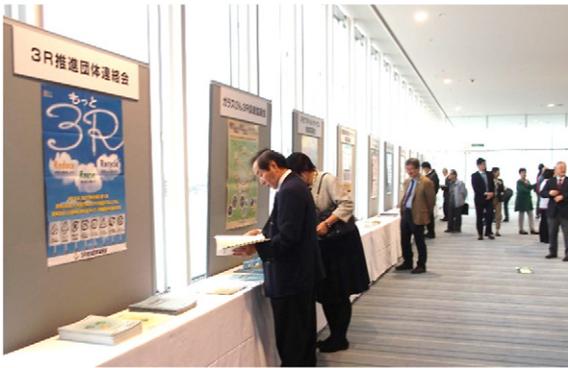
国際会議室（マリンホール）入口に続く4階ホワイエに3R推進展示コーナーが設けられ、31団体が出展したほか、3R促進ポスターコンクールの入賞作品が展示されました。開会前には、石原宏高環境副大臣らが展示コーナーを訪れ、ブース担当者の説明を熱心に聞いていました。

【出展者】（順不同）

○環境省○新潟市○3R活動推進フォーラム○新潟県○3R推進団体連絡会○ガラスびん3R促進協議会○PETボトルリサイクル推進協議会○紙製容器包装リサイクル推進協議会○プラスチック容器包装リサイクル推進協議会○スチール缶リサイクル協会○アルミ缶リサイクル協会○飲料用紙容器リサイクル協議会○段ボールリサイクル協議会○リデュース・リユース・リサイクル推進協議会○NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット○日本再生資源事業協同組合連合会○公益社団法人食品容器環境美化協会○一般社団法人パソコン3R推進協会○「プラスチック・スマート」フォーラム事務局（一般財団法人日本環境衛生センター）○富山県○福井県○上越市○株式会社バイオマスレジ南魚沼○新潟お笑い集団 NAMARA○新潟気軽に省エネくらぶ○にいがた菌ちゃん野菜応援団OREBIRTH 食育研究所○NPO 法人フードバンクにいがた○生活協同組合コープにいがた○生活協同組合コープクルコ○生活協同組合パルシステム新潟ときめき



展示コーナーを視察する石原副大臣、中原市長、崎田3R活動推進フォーラム副会長ら



▲▼展示コーナーには、主催者をはじめ、自治体、関連団体等多数出展されました。



◀出展者によるクイズも行われました。



◀3R促進ポスターコンクール入賞作品の展示

5. 名刺交換会

記念シンポジウム終了後、4階ホワイエの3R推進展示コーナーで、主催関係者や講師・パネリストと大会参加者による名刺交換会が行われました。出席者は、用意された新潟県産の洋ナシ「ル レクチエ」を使った「ルレクチエウォーター」や、新潟のお菓子「サラダホープ」などを味わいながら、歓談に花を咲かせていました。



◀リユースカップを使用しました。

6. 関連イベント

(1) 施設見学会

本大会の関連イベントとして、新潟市と3R活動推進フォーラムが主催する施設見学会が10月29日(火)午前中に行われ、新潟市亀田清掃センターを見学しました。9時に新潟駅南口貸切バス乗り場に参加者44名が集合し、大型バスで新潟市亀田清掃センターに向かいました。

亀田清掃センターは、1日390トンのごみを処理できる新潟県下最大のごみ処理施設で、焼却した熱を利用して最大5,500キロワットの発電ができます。亀田清掃センターでは、施設について説明を受けた後、センター内を移動し中央制御室やごみピットなどを見学しました。その後、いくとびあ食花に移動して昼食をとり、大会会場である朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンターに到着しました。



映像で施設の説明を受ける参加者



収集車がごみピットへごみを投入する様子を視察



蒸気タービン発電機の説明を受ける参加者



中央制御室を視察

(2) にいがた市民環境フェア

10月20日(日)に、新潟市内の亀田駅前地域交流センターにて「にいがた市民環境フェア」(主催:にいがた市民環境会議 共催:新潟市、新潟市地球温暖化対策地域推進協議会)が開催されました。

同展は、新潟市民が1年に1度地球環境のために集う環境フェアで、今年は20団体が出展。展示の他、エコクイズ大会、早通小学校による環境学習発表などのステージイベントやエコクイズラリーもあり、500名の方が来場しました。新潟市、3R活動推進フォーラム、新潟気軽に省エネくらぶもブース出展しました。



3R活動推進フォーラムの出展ブース



会場の模様

7. 資料

(1) 第14回3R推進全国大会開催案内（参加申込書）

10月は3R推進月間です。

新潟県
新型イニシアティブ
～知識と意識で3Rを推進～

第14回 in 新潟 3R推進全国大会

令和元年
10/29 火
13:00～16:30
(受付開始12:00)

入場料 定員500名

※会場の都合により変更の可能性があります。
申し込みはご遠慮ください。

会場 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター 4F 国際会議室(マリンホール)
新潟市中央区万代島6番1号

参加ご希望の方は、裏面のFAXフォームまたはメール、ホームページよりお申込みください。

プログラム

第1部 13:00～14:10 大会式典 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰

第2部 14:20～16:25 記念シンポジウム

基調講演 「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」
環境省中央環境審議会循環型社会部会委員・3R活動推進フォーラム副会長 岡田 裕子氏

事例発表 新潟発「ライスバレー」にいかたプロジェクト
株式会社バイオマシソン尾島 専務取締役 経営企画室 兼 長 中谷内 美穂氏



岡田 裕子氏

パネルディスカッション ～食品ロス削減へ！これからのイニシアティブ～

コーディネーター NPO法人持続可能な社会をつくる元氣ネット理事長 岡田 裕子氏

パネリスト 新潟県立大学 応用生命科学部 特任講師 石川 重実子氏
イオンリテール株式会社 北陸信越カンパニー 環境・社会貢献グループ マネージャー 山崎 篤司氏
新潟お笑い集団NAMARA 代表 江口 夢生氏
新潟県にぎエネくらぶ 代表 渡多野 千代氏
株式会社環境再生・資源循環戦略推進型社会推進委員 高安 健一郎氏

当日の概し

3R推進展示コーナー(10:00～17:30)

- 令和元年度3R促進ポスターコンクール入賞作品
- 新潟県 ●新潟市 ●新潟県内の自治体
- 環境省関東地方環境事務所
- 3R推進部会連絡会 (ペットボトル等容器資源リサイクル法推進8団体)
- 3R活動推進フォーラム
- 日本再生資源事業協同組合連合会
- リデュース・リユース・リサイクル推進協議会
- 新潟県内のNPO・企業団体等

関連イベント

施設見学
新潟市亀田清掃センター、いくとびあ食花
日時:10月29日(火)9:00～12:25 定員:50名
事前申込制・先着順
※申込受付完了後、事務局より受付完了のご連絡をいたします。
詳細は裏面をご覧ください。

にいかた市民環境フェア
日時:10月20日(日)10:00～15:00
会場:亀田駅前地域交流センター3F・亀田駅東西自由通路
主催:にいかた市民環境会 共催:新潟市など

配布資料がありますので、マイバッグ等をお持ちください。

主催▶ 第14回3R推進全国大会実行委員会
(環境省・環境省関東地方環境事務所、新潟市、3R活動推進フォーラム)

後援▶ 新潟県

お問い合わせ先▶ 第14回3R推進全国大会実行委員会事務局(3R活動推進フォーラム内)
TEL:03-6908-7311



表面

第14回3R推進全国大会参加申込書

令和元年10月29日(火) 13:00～16:30(受付開始12:00)

FAX 03-5362-0121

メール 3Rsymposium2019@omc.co.jp
名前、団体名、部署、自宅住所及び所属先住所、TEL、FAXをご記入ください。

申込締切 10月23日(水)

ホームページ <http://3r-forum.jp>  お申し込み受付後、事務局より受付完了のご連絡をいたします。

お名前	団体名・部署
お名前	〒
自宅住所	
又は	
所属先住所	
TEL(※)	FAX
	E-mail

●施設見学をご希望のかたは、下記施設見学会申込書欄もご記入のうえ、緊急時にご連絡する可能性がありますので上記TEL欄に携帯電話の番号をご記入ください。

※お申し込み受付後、個人ご住所が変更された場合は「住所変更」欄に、所属先住所が変更された場合は「所属先住所変更」欄に、お申し込みの住所及び所属先住所のいずれかを必ず変更してください。

大会会場



**朱鷺メッセ
新潟コンベンションセンター**
新潟市中央区万代島6番1号

JR新潟駅から
バス:万代口バスターミナル3番線
佐渡汽船線約15分「朱鷺メッセ」下車
徒歩:約20分

新潟空港から
タクシー:約20分
バス:リムジンバス(新潟駅行約25分)
・路線バス(約15分)

施設見学会 10月29日(火)9:00～12:25 定員50名 事前申込制・先着順

施設見学会参加申込書 全国大会参加申込書に限りません。

施設見学会の参加を申し込みます。(参加無料) 昼食代:男性1,800円(税別)、女性1,600円(税別)が必要です。
集合場所については受付完了時に案内いたします。 参加申込の方は○印をご記入ください

コース 新潟市亀田清掃センター → いくとびあ食花
亀田清掃センター
1日390トンのごみを処理できる新潟県下最大のごみ処理施設。燃焼した熱を利用して最大5,500キロワットの発電ができます。

スケジュール JR新潟駅南口(9:00集合・9:10出発 ※専用バス利用) → 新潟市亀田清掃センター-見学(9:30～10:15) →
いくとびあ食花(昼食)(10:30～12:00) → 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター到着(12:25)

お問い合わせ先▶ 第14回3R推進全国大会実行委員会事務局(3R活動推進フォーラム内)
TEL:03-6908-7311



裏面

(2) 参加者用パンフレット

10月は3R推進月間です。

第14回 in 新潟

3R推進全国大会

nigata
新型イニシアティブ
～知識と意識で3Rを推進～

プログラム

令和元年
10/29
13:00～16:30
(受付開始12:00)

会場
朱鷺メッセ
新潟コンベンションセンター

主催 ▶ 第14回3R推進全国大会実行委員会
(新潟県、新潟市、環境省関東地方環境事務所、新潟市、3R活動推進フォーラム)

後援 ▶ 新潟県



1 ページ

プログラム

第1部 大会式典 13:00▶13:55

13:00▶13:25 開会挨拶 環境省 新潟市 3R活動推進フォーラム
来賓挨拶 新潟市議会議長
来賓紹介

13:30▶13:55 表彰式 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
3R促進ポスターコンクール最優秀表彰

第2部 記念シンポジウム nigata 新型イニシアティブ～知識と意識で3Rを推進～ 14:20▶16:25

14:20▶14:50 基調講演 「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」
環境省中央環境審議会循環型社会部会委員・3R活動推進フォーラム副会長
嶋田 裕子氏

14:50▶15:10 事例発表 新潟発「ライスバレー」にいたプロジェクト
株式会社バイオマスレジソル 専務取締役 経営企画室 室長
中谷内 美昭氏

15:15▶16:25 **パネルディスカッション** ～食品ロス削減！これからのイニシアティブ～
コーディネーター NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長
嶋田 裕子氏
パネリスト 新潟医科大学 応用生命科学部 特任講師
石丸 亜矢子氏
イオンリテール株式会社 北陸信越カンパニー 広報・環境社会貢献グループ マネージャー
山城 篤司氏
新潟お笑い集団NAMARA 代表
江口 歩氏
新潟県轄に省エネくらぶ 代表
波多野 千代氏
環境省環境再生・資源循環局総務課循環型社会推進室長
富安 健一郎氏

16:25▶16:30 次回開催挨拶 和歌山県環境生活部環境政策課長 古川 勉氏

講師紹介

嶋田 裕子
環境省中央環境審議会循環型社会部会委員・3R活動推進フォーラム副会長
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット理事長 全農おもしろい食べど運動ネットワーク協議会会長
ジャーナリスト・健康番組 監修カウンセラー
立教大学社会学部卒業、11年の出版経験を経て、ジャーナリストに。生活者の視点で社会を捉え、近年は環境問題、特に「持続可能な社会・循環型社会づくり」を中心テーマに、講演・執筆活動に取り組み中。

2 ページ

令和元年度循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰

表彰者のご紹介(順不同・敬称略)

3R活動優良企業

金満酒造株式会社
平成25年より、酒粕を利用した新商品開発による産業廃棄物の完全削減を実施。今まで処分していた酒粕を、肉牛農家における試験利用を経て、家畜の飼料化を実現。また、地元の食品加工会社にも協力を仰ぎ、各社に無償で酒粕を提供し、産品加工に向けた試製製造を依頼し、酒粕の新規利用先の開拓に成功した。

坂井森林組合
長年に渡り、同伐材から木質チップを製造し、防草材に有効活用するリサイクルを行うとともに、近年は化学メーカーと協働し、副産材を原料とした製品を製造する先駆的な取組み等を行い、リサイクルの推進に貢献している。

平林金属株式会社
独自技術を用いたリサイクルプラントを整備し、ペースメタルや希少金属類、プラスチック等の高品位回収・リサイクルを実施。また、家庭で不用となった小型家電や金属類等を回収する有人型資源集積システム「えこぽん」を全国で初めて構築し、市民にリサイクル活動を普及させ、産業物の適正処理及び循環型社会の形成に大きく貢献している。

水島エコワークス株式会社
食料市や水自給コンピナーの廃棄物を県内一帯のサーモレシク方式のガス化施設処理システムにより100%再資源化し、資源循環型社会の実現に貢献。平成30年7月豪雨で岡山県において発生した災害廃棄物の処理にも貢献。また、環境教育の一環として、長年にわたり施設見学を実施している。

株式会社エヌ・エス・アンド・ティ
富岡から天然アミノ酸を高純度で安定的に生成する技術開発に成功し、機能性化粧品やサプリメントなどの原料として活用した。また、その残渣も、飼料としてリサイクル可能で、循環型社会の形成に優れた事業モデルを実現している。

株式会社博水
これまで原料である「えそ」の頭や内臓など、これまで未利用で廃棄されていた部位に「えそ」の魚卵を利用した天然調味料「魚卵」を開発製造し、食品廃棄物リサイクルに貢献している。

3R活動推進功労(団体)

**青森県生活協同組合連合会
生活協同組合コープあおもり
青森県民生活協同組合**
1990年から県内でいち早く牛乳パックの回収を奨励。その後もアルミ缶、食用廃油、古紙の回収を県内12店舗及び周辺地域にて開始するとともに、マイバッグの推進、クリーンBOX設置費用補助による分別収集の促進、植樹活動等による環境保全に関する啓発活動にも取り組んでいる。

新潟気軽に省エネくらぶ
平成13年から、自治会や地域コミュニティ協議会との連携や自主製作パンフレットで、地球温暖化防止に向けた必要性を普及し貢献。家庭の省エネの推進活動等、家庭で気軽に始める3Rの取組みを紹介し啓発活動を継続している。

富山県立砺波工業高等学校生徒会
20年に渡り、地域の行事等で壊れたおちゃの修理・リユース活動「おちゃの楽園」を実施。農機工学部、電気工学部及び電子工学部の生徒が中心となり、授業で身につけた知識と長年の活動のノウハウで、地域の子供たちの環境教育やこどもの発育に大きく貢献している。

社会福祉法人義和会 エコボックス
鳥取県で唯一福祉サービス事業所でリユース食器レンタルを行っている。リユース食器を利用した各種イベント会場にも積極的に出向き、情報発信をし利用促進に貢献している。「環境と福祉のコラボレーション」を活動方針としており誰一人取り残さない社会の実現と環境負荷の低減に貢献している。

和気町環境衛生指導員協議会
地域の環境美化に努めるとともに、循環型社会の形成に向けての普及啓発を行っている。「和気町レジ袋有料化」の取組みによるレジ袋の削減や資源物の分別収集を実施。分別収集された生ごみはたい肥化処理をし、住民に配布するなど、和気町の主要産業である農業にも貢献している。

緑のリサイクル・ソーシャル・エコプロジェクトチーム
公園等で発生する「刈草」を焼却処分すると多量にCO2を排出することに着目。「刈草」を100%リサイクルした資源循環型肥料を開発し、県内外での出前授業等を通じて配布し、普及啓発活動に取り組んでいる。

3 ページ

3R促進ポスターコンクール最優秀表彰

令和元年度3R促進ポスターコンクール最優秀作品(敬称略)

小学生低学年の部
石川県金沢市小坂小学校1年生
飯田 健太

小学生中学年の部
新潟県新潟市立上野小学校4年生
本間 裕太

小学生高学年の部
愛知県安城市立新田小学校6年生
大見 菜夏

中学生の部
愛知県知立市立知立南中学校2年生
高木 崇生

当日の権し

3R推進展示コーナー(10:00～17:30)

- 令和元年度3R促進ポスターコンクール入賞作品 ● 環境省 ● 環境省関東地方環境事務所
- 新潟県 ● 新潟市 ● 新潟県内の自治体 ● NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット
- 3R推進団体連絡会(容器包装リサイクル法関連団体) ● 3R活動推進フォーラム
- 日本再生資源事業協同組合連合会 ● (公)食品容器環境美化協会
- リデュース・リユース・リサイクル推進協議会 ● (一社)パソコ3R推進協会
- 新潟県内のNPO・企業団体 等

第14回3R推進全国大会実行委員会事務局(3R活動推進フォーラム内) TEL:03-6908-7311

4 ページ

(3) 来場者アンケート

①アンケート票

第14回3R推進全国大会アンケート

アンケートへの御協力をお願いいたします。お持りの授受付のスタッフにお渡しください。

1 大会全体についてどのように感じましたか？

① 大変よかった ② よかった ③ 普通 ④ よくなかった

2 特に良かったプログラムは何ですか？（複数回答可）

① 表彰式
② 基調講演「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」
③ 事例発表「新潟発『フリスバレーにいがたプロジェクト』」
④ パネルディスカッション「～食品ロス削減へ！これからのイニシアティブ～」
⑤ 3R推進展示コーナー

3. 良いと思わなかったプログラムは何ですか？（複数回答可）

① 表彰式
② 基調講演「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」
③ 事例発表「新潟発『フリスバレーにいがたプロジェクト』」
④ パネルディスカッション「～食品ロス削減へ！これからのイニシアティブ～」
⑤ 3R推進展示コーナー

4. 上記で回答いただいたものについて、具体的にどのようなところが良くなかったのか。また、どのように改善すればよいものになると思うか、お書きください。

5. 大会に参加して、3Rに対する意識に変化がありましたか？

① 意識に変化があり、行動につなげようと思った ② 意識に変化はなかった

6. 上記で①と回答された方は、具体的にどのように変化があったかお書きください。また、②と回答された方は、どう改善すれば、3R行動につながると思うか、お書きください。

7 3R推進全国大会については何でお知りになりましたか？（複数回答可）

① 案内状が送られてきた
② ネット・メール（具体的に）
③ 新聞、専門誌等（具体的に）
④ 発表者、施設見学先等ご参加者からの案内
⑤ ①以外の知り合い
⑥ 県等からの呼びかけ
⑦ その他（）

8 大会の運営方法、スタッフの対応はいかがでしたか？

① 大変よかった ② よかった ③ 普通 ④ よくなかった

9 大会のプログラムや進め方についてご意見があればお書き下さい。

10. あなた自身について御尋ねします。

(1) ご参加のお立場

① 被表彰者又はその関係者 ② 施設見学参加者 ③ ①及び②以外

(2) 御所属（複数回答可）

① 市町村 ② 一部事務組合 ③ 都道府県
④ 国・関係機関 ⑤ NPO・市民団体 ⑥ 個人
⑦ 報道関係 ⑧ 廃棄物・リサイクル関係業界 ⑨ ⑩以外の企業、団体
⑩ 大学、研究者、コンサルタント等

(3) 本日はどちらからご参加いただきましたか？

① 新潟県内 ② 新潟市内 ③ 新潟以外（ 都道府県）

11. その他、ご意見があれば自由にお書き下さい。

御協力ありがとうございます。

②アンケート集計結果

回答数は132名でした。

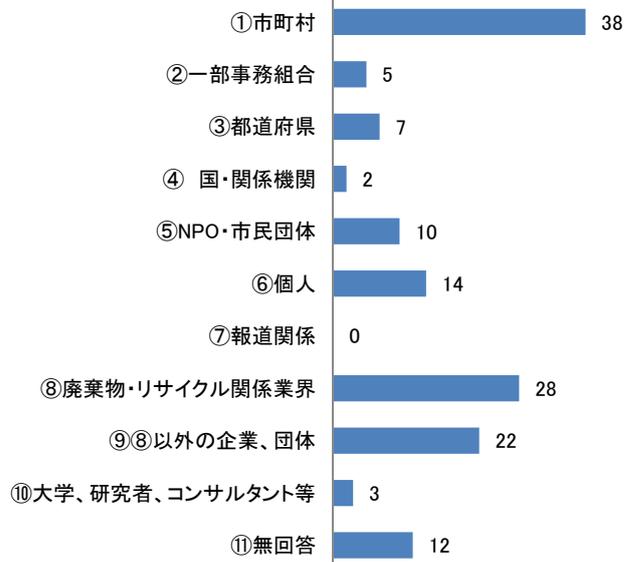
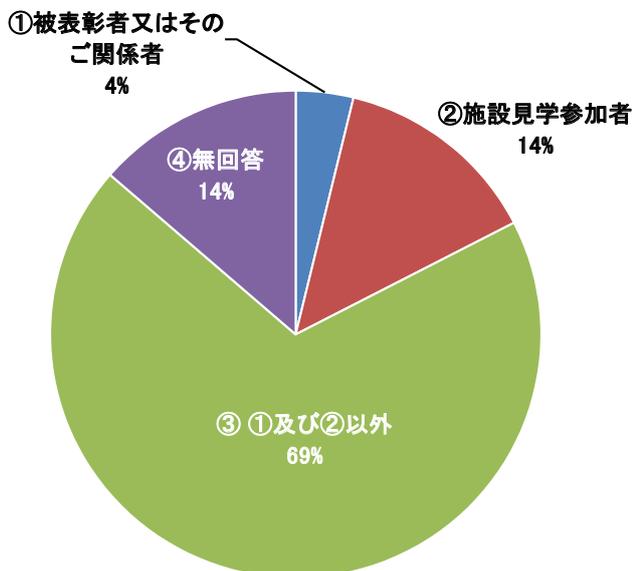
【参加者の属性】

10 あなた自身について御尋ねします。

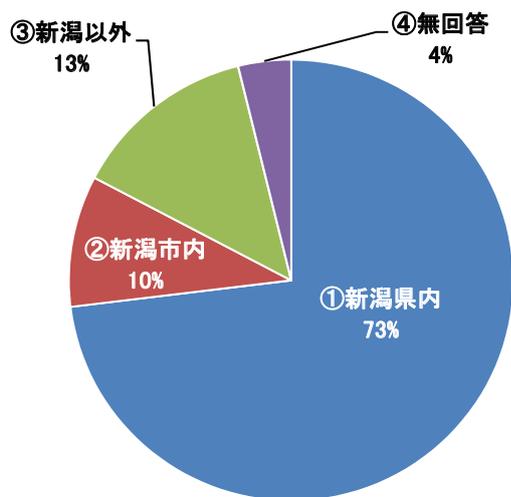
(1) ご参加のお立場

(2) 御所属（複数回答可）

(単位：人)



(3) 本日はどちらからご参加いただきましたか？



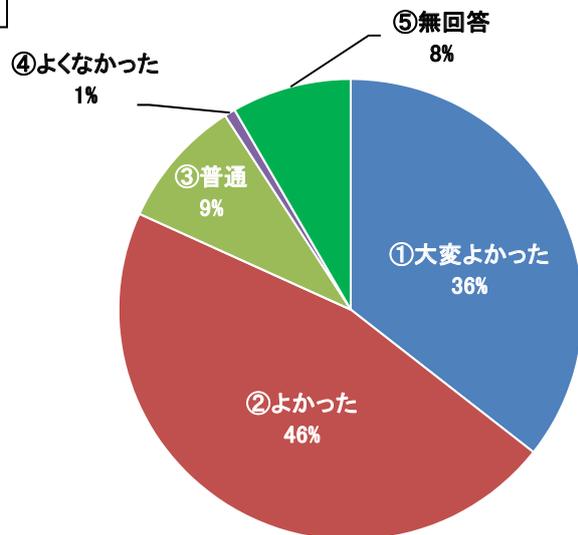
- ①新潟県内
- ②新潟市内
- ③新潟以外（都道府県）
- ④無回答

<③と回答された方>

- ・茨城県
- ・東京都
- ・富山県
- ・石川県
- ・長野県
- ・愛媛県

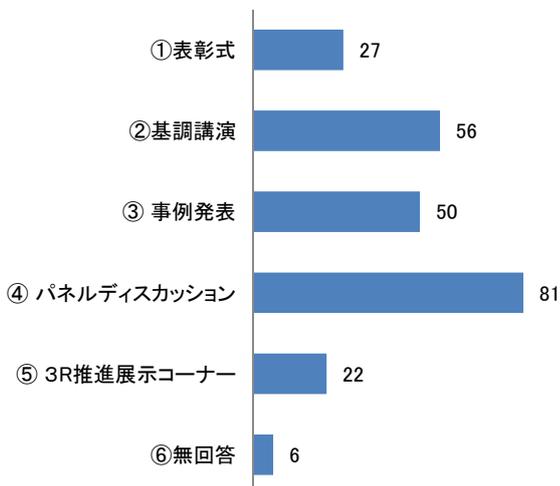
1 大会全体についてどのように感じましたか？

- ①大変よかった
- ②よかった
- ③普通
- ④よくなかった
- ⑤無回答



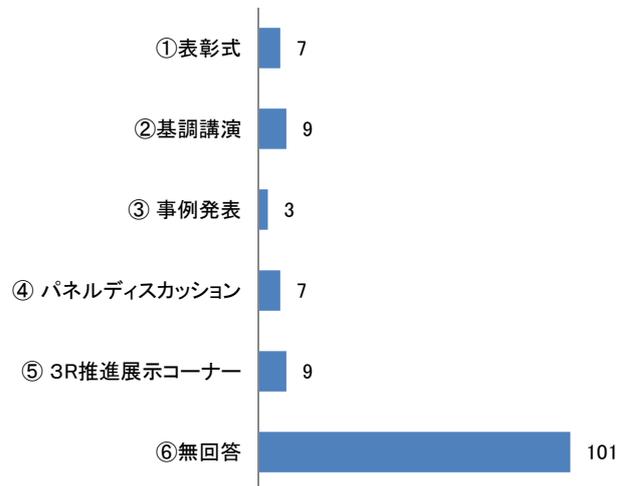
2 特に良かったプログラムは何ですか？
(複数回答可)

(単位：人)



3 良いと思わなかったプログラムは何ですか？
(複数回答可)

(単位：人)



4 上記で回答いただいたものについて、具体的にどのようなところが良くなかったのか。また、どのように改善すればよいものになると思うか、お書きください。

〈大会式典〉

- ・表彰者から取組の概要説明をしていただいた方が、より来場者に伝わるものがあるのではないのでしょうか。
- ・3R活動優良企業には都道府県名を記すべき。どこの企業かがわからない。団体も同様。

〈基調講演〉

- ・内容意義は理解できたと思いましたが、説明が速過ぎて資料を追うのが大変であった。
- ・話が専門的過ぎた。もっとざっくりとキーワードを伝えるだけでも十分伝わる。

〈事例発表〉

- ・もう少し具体的（技術的）な話が聞きたかった。
- ・新潟が主導してできることがこんなにもスゴイのか！と惹きつけられました。
- ・ライスバレーにいがたは現場の様子を見たいと思った。

〈パネルディスカッション〉

- ・紙資料がもったいないと思いました。手間はかかるかもしれないのですが、タブレットをもっている人はダウンロードできるようにすればいいと思います。
- ・パネルディスカッションでは、江口様の意見がとても分かりやすく「共感」と思うことが沢山あった。
- ・賞味期限と消費期限の問題が論議されたが、消費期限のみで行けばよいと思いました。贅沢になった人達には、美味でないとすればそれは買いません。それが残れば売方は捨てるしかなくなる。この問題は消費者の意識の問題なので2つあることで混乱が起きていると思います。
- ・皆さん話をされる事は正しいと思うのですが、立ち位置が違っているのでやや話がバラついてしまっていたように感じました。
- ・学ぶ事が多かった。
- ・賞味期限の考え方、まだ食べられる事。

〈3R推進展示コーナー〉

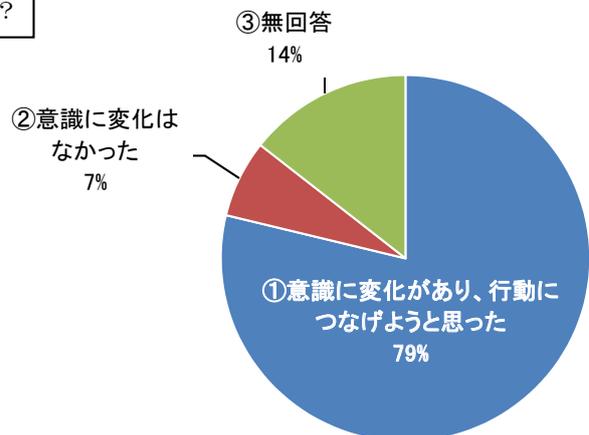
- ・会場内で展示物が見れると良かった。

〈その他〉

- ・何かに取り組んでいるステージの人のみの話だけで聞いた人に質問する時間がない。休憩の時間に参加者の声も聞いてもらいたい。

5 大会に参加して、3Rに対する意識に変化がありましたか？

- ①意識に変化があり、行動につなげようと思った
- ②意識に変化はなかった
- ③無回答



6 上記で①と回答された方は、具体的にどのように変化があったかお書きください。また、②と回答された方は、どう改善すれば、3R行動につながると思うか、お書きください。

〈①と回答された方〉

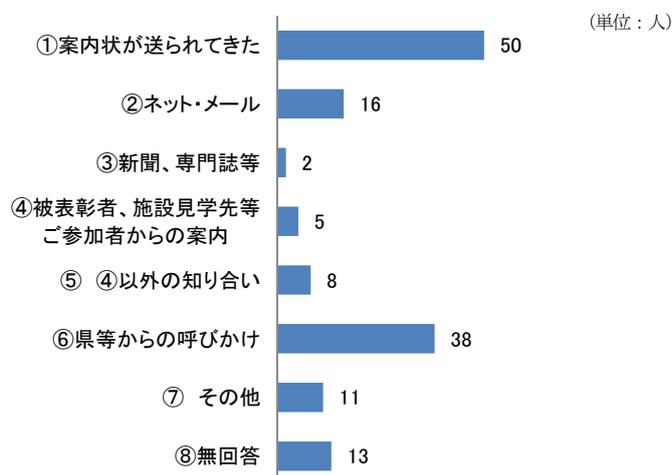
- ・他団体との出会いもあり、全体的に大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・食品ロスが思った以上に多いと思った。これまで以上に使い切りを意識したい。また、賞味期限を神経質にとってしまうことが多いが、実際にはかなり余裕があると知った。早めの使い切りを重視しつつも、多少過ぎてでも有効活用したい。
- ・あらためてプラスチックごみを減らそうと思った。食ロスをこれからも続けていきたい。
- ・食べきれぬ量だけ買う。エコバッグを持ち歩く。
- ・まずは他人ごとではなく自分ごとへ。

- ・身近に出来る具体的な内容を知ることが出来た。
- ・毎日の食事は食べ残しをなくす努力をしようと思う。全員が主役であるよう連携強化を図るために一人一人を大切にすることが3R推進できると思った。
- ・自分が活動している場所で情報を共有、発信をしていきたいと思います。
- ・リサイクル商品の割高感を無くすこと、環境にやさしい資材で地産地消する取組が必要だと思いました。
- ・各自治会活動のゴミ分別を各個人がより細やかな内容で分別できるよう、市→町内自治会→個人が手をつなぎ、ゴミを削減出来るよう努めて行きたいと思います。
- ・自分でやれる事はやっていますが、まだまだやれる事が多くあると思いました。
- ・3Rという言葉の意味を、子供たちの絵画などと併せて教えて頂いて、自身の生活にも生かそうと思いました。
- ・食品ロスをなくすことを家族で話し合う。
- ・現在も環境問題を意識し、仕事を展開しており、さらに3Rを意識したビジネスモデルの構築を考えたい。
- ・事例発言参考になった！生ゴミは40%ロスの削減重要。
- ・もともと意識しているからこそ参加したのだが、講演等を聴き、今まで以上に意識を高めて行動することの大切さを実感した。
- ・一生懸命な方達の取組を感じられて刺激になった。
- ・米がプラになることを知った。
- ・フードロス対策、フードバンクの存在を認識した。
- ・自治体職員として、環境教育、市民への普及啓発の方法について、大変勉強になった。現状を理解できたことと、様々な立場の方の意見を聞くことが大切だと思いました。
- ・職場での啓発活動に力を入れたい。
- ・SDGs等の世界的な指標から、個人の行動に落とし込めるようなプログラム構成であったため、SDGsをより身近なものとして捉えるようになった。
- ・フードロスについて、外食でのテイクアウトの認識が無かったので、改善したい。
- ・SDGsの避けられない流れの中で、食品ロス削減も注目されている。取り組むことが大事になっていることに気付かされた。
- ・プラ削減について深く考えていこうと思った。
- ・リサイクル社会の促進に各個人の参加が重要だと改めて感じた。
- ・最新の取組を聞くことができた。
- ・わたしも無意識にスーパーの棚の奥から商品を取っていました。改めたいと思います。
- ・パネルディスカッションの皆様の意見が大変興味深かった。まずは自分事として知ること、そして行動すること、それをどう皆でつながっていくかということを考えていきたい。
- ・食品ロスをなくす為に、日付を大きく記載するようにする。
- ・SDGsの重要性に対する意識が高まった。様々な3Rの事例や情報を知ることが出来た。
- ・まずは他人ごとではなく自分ごとへ。自分でできることを考える。身の回り、食品ロス、日記をつける。

<②と回答された方>

- ・今の意識・行動を継続するのみ。
- ・個人的には協力しています。あとは行政、環境・消費、農水省、3団体協調して進めてほしい。

7 3R推進全国大会については何でお知りになりましたか？
(複数回答可)



<②と回答された方>

- ・環境省のHP
- ・新潟市
- ・燕市

<③と回答された方>

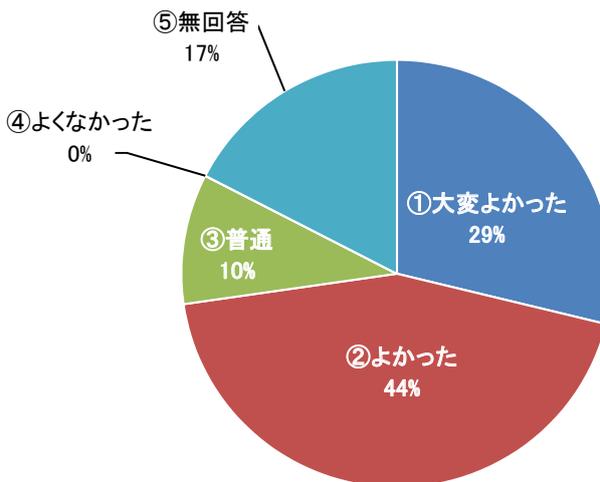
- ・県、全国ネット

<⑦と回答された方>

- ・日報の記事
- ・新潟市から
- ・3R活動推進フォーラムから
- ・生協関連
- ・再生利用事業者

8 大会の運営方法、スタッフの対応はいかがでしたか？

- ①大変よかった
- ②よかった
- ③普通
- ④よくなかった
- ⑤無回答



9 大会のプログラムや進め方等についてご意見があればお書きください。

- ・ポスターの展示が、今年は実物だった。とても良いと思います。
- ・時間は守って欲しい。(熱が入るので難しいとは思いますが。)
- ・内容を聞きまして、大変意義深く、これからの世界で海洋汚染の環境をみると、進めることが早急であることが大変必要であることが理解できた。特に新潟発「ライスバレーにいがた」の取組について、企業の発展向上を期待します。
- ・第2部にも一度休憩がほしい。
- ・基調講演やパネルディスカッションの時間をもっと取れると良いのと思いました。
- ・技術面(リサイクル)の紹介や分科会(3Rごと)の関係などで、より大規模(情報発信)に開催してはいかがでしょうか？
- ・パネルディスカッションが良かった。
- ・だんだんと個々人に近づき大変良かったと思います。パネルの進め方、とても良かったです。

11 その他、ご意見があればご自由にお書き下さい。

- ・主婦としてできること。食品ロス削減に努めていきたいと思いました。
- ・全体的に話のスピードが速く、専門的な言語が多い中で、何で早口で進めるのか。地球が危ないので急いでいるのか？1人が早口だと皆が合わせてしまう。
- ・3R推進展示コーナー出展者が積極的に説明していただき、好感が持てて良かったです。
- ・3Rは一般に認識不足と思われる。メディアを通じてもっともっと運動を広げて欲しい。
- ・内容は素晴らしかったと思う。もう少し簡単にやさしくして一般の人にも聞いて欲しいです。
- ・新潟市のゴミ収集中40%生ゴミが出ている事に驚いた。食品ロス、生産者側(見込み誤りを無くす)、買う者側(欲張らず食べられる量だけ買って消費する。)を削減する努力を行う。
- ・3Rを進めていくことで、環境が良くなっていくと思われるので、一步一步出来ることから意識を持って進めることが大事。
- ・代理で出席しましたが、個人の生活を見直すきっかけとなり良かったです。
- ・「新潟省エネくらぶ」の活動報告が興味を持って身近に感じた。大会に対し勉強不足でした。食品ロスの取り組みは意外に分かりやすかった。

(4) 報道掲載記事

ウエイスト マネジメント
9月15日

環境省、新潟市、3 R活動推進フォーラムが開催する第14回3 R推進全国大会が、10月29日に新潟市の朱鷺メッセで開催される。

同大会は、国民・事業者・行政が一堂に会し、取組みや知見を共有・発信することで3 Rへの理解と取組みを

環境省、新潟市、3 R活動推進フォーラムは、10月29日(火)、新潟市で「3R推進全国大会」を開催する。「niigata 新型イニシアティブ〜知識と意識で3Rを推進」をテーマに、新潟発「ライスバレーにいがたプロジェクト」の事例発表や、食品ロス削減をテーマにしたパネルディスカッションなどのシンポジウムを行う。

●日時：2019年10月29日(火) 13:00~16:30
●会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
●主催：環境省、新潟市、3R活動推進フォーラム
●内容：第1部 式典
・循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
・3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰
第2部 記念シンポジウム
・基調講演「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」
講師：3R活動推進フォーラム副会長 崎田裕子氏
・事例発表 新潟発「ライスバレーにいがたプロジェクト」
講師：(株)バイオマスレジソ南魚沼 専務取締役 経営企画室 室長 中谷内美昭氏
・パネルディスカッション「〜食品ロス削減へ!これからのイニシアティブ〜」

●関連イベント：
・施設見学 新潟市亀田清掃センター、いくとびあ食花 10月29日(火) 9:00~12:25
にいがた市民環境フェア 10月20日(水) 10:00~15:00 会場:亀田駅前地域交流センター

●参加費：無料
●問い合わせ：3R活動推進フォーラム事務局 ☎03-6908-7311

3 R推進全国大会開催へ
環境省他 10月29日に新潟市

「SD」している。また、環境大臣表彰や3 R促進ポスターコンクールも行われる。さらに、新潟市亀田清掃センターへの施設見学なども予定されている。

詳細は、3 R活動推進フォーラムのウェブページ(<https://3r-forum.jp/>)で。

月刊廃棄物 10月号

第14回「3R推進全国大会 in新潟」開催へ
(環境省、新潟市、3R活動推進フォーラム)

環境省、新潟市、3R活動推進フォーラムは、10月29日(火)、新潟市で「3R推進全国大会」を開催する。「niigata 新型イニシアティブ〜知識と意識で3Rを推進」をテーマに、新潟発「ライスバレーにいがたプロジェクト」の事例発表や、食品ロス削減をテーマにしたパネルディスカッションなどのシンポジウムを行う。

●日時：2019年10月29日(火) 13:00~16:30
●会場：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
●主催：環境省、新潟市、3R活動推進フォーラム
●内容：第1部 式典
・循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
・3R促進ポスターコンクール最優秀賞表彰
第2部 記念シンポジウム
・基調講演「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」
講師：3R活動推進フォーラム副会長 崎田裕子氏
・事例発表 新潟発「ライスバレーにいがたプロジェクト」
講師：(株)バイオマスレジソ南魚沼 専務取締役 経営企画室 室長 中谷内美昭氏
・パネルディスカッション「〜食品ロス削減へ!これからのイニシアティブ〜」

●関連イベント：
・施設見学 新潟市亀田清掃センター、いくとびあ食花 10月29日(火) 9:00~12:25
にいがた市民環境フェア 10月20日(水) 10:00~15:00 会場:亀田駅前地域交流センター

●参加費：無料
●問い合わせ：3R活動推進フォーラム事務局 ☎03-6908-7311



デイスカッションを実施
3 R推進全国大会
食品ロスなどをテーマに

環境省、新潟市、3 R活動推進フォーラムは、10月29日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで「第14回3 R推進全国大会」を開催する。今年度は「新型niigataイニシアティブ」知識と意識で3Rを推進」を

環境省、新潟市、3 R活動推進フォーラムは、10月29日に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターで「第14回3 R推進全国大会」を開催する。今年度は「新型niigataイニシアティブ」知識と意識で3Rを推進」を

循環経済新聞 10月7日

他、基調講演「SDGsと3R促進、地域循環共生圏構想の推進」(NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット・崎田裕子理事長、事例発表「新潟発「ライスバレーにいがたプロジェクト」(バイオマスレジソ南魚沼・中谷内美昭専務、パネルディスカッション「〜食品ロス削減へ!これからのイニシアティブ〜」(崎田裕子理事長、環境省、新潟県内の団体および事業者)を行う。

プレス発表では、令和元年度3 R促進ポスターコンクール入賞作品▽新潟県、新潟市、新潟県内の自治体▽環境省関東地方環境事務所▽3 R推進団体連絡会(ベクトル)▽袋谷包製リサイクル法関連8団体▽3 R活動推進フォーラム▽日本再生資源事業協同組合連合会▽リデュース・リユース・リサイクル推進協議会▽新潟県内のNPO、企業団体等について紹介する。

参加申し込みは、3 R活動推進フォーラムホームページ(<http://3r-forum.jp/>)で、10月23日まで受付している。



石原環境新大の副会長あいさつ

人類の生存の基礎である豊富な資源を、将来の世代に引き継いでいくためには、3Rを徹底し、循環型社会を、国際をはじめ関係者が一体となって構築することが重要である。

中野新潟市長の副会長あいさつ

「今年5月には同じ会場で行ったG20新幹線推進大会が開催され、環境教育では、食ロス削減に関する取り組みが注目された。同じく3R推進大会が実施されることは、今後の一層の推進を促すことにつながる。新潟県では、県民の環境意識を高め、3R推進に向けた取り組みを進めており、本大会が一層の取り組みの契機となり、全国への効果的な取組の模範となることを心から祈ります。」



知識と意識で3R推進へ 新型(nigata)新ニシアティブを!

●3R推進全国大会in新潟

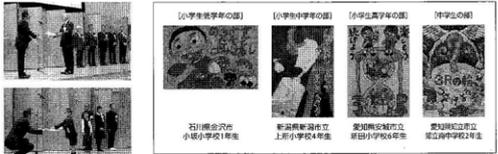


会場に到着した石原環境新大(右)と新潟県副知事(左)の挨拶の様子

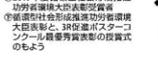


式典の様子。会場となった米越メッセは、今年5月に開催されたG20新幹線推進大会でも使用された。

2019年度3R推進ポスターコンクール最優秀賞作品



2019年度環境型社会形成推進 功労者表彰式



功労者表彰式の様子

2019年度環境型社会形成推進功労者 環境大臣表彰 受賞者

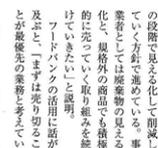
- List of award recipients including individuals and organizations like 新潟県環境教育推進委員会, 新潟県環境教育推進協議会, etc.



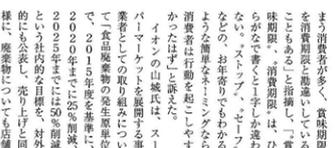
功労者表彰式の様子



功労者表彰式の様子



環境型社会形成推進功労者表彰式の様子



功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子

環境型社会形成推進功労者表彰式

環境型社会形成推進功労者表彰式の様子



古紙パルプ配合率80%再生紙を使用

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可

本冊子は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。

この製品は、古紙パルプ配合率 80%の再生紙を使用しています。このマークは、3R活動推進フォーラムが定めた表示方法に則って自主的に表示しています